

衆議院議員 高木けい

未来を創る！新たな挑戦。



ウクライナで起こっていることは、 遠い国の出来事ではない

1月17日から始まった今年の通常国会は、2月22日、衆議院で令和4年度予算が可決、参議院へ送られたことにより年度内成立の目途が立ち、まずは最初の山を超えるました。これはわが国にとって重要なことに違いありません。

一方、世界に目を転じれば、ウクライナ情勢はついにロシアがウクライナを侵略、重大な一線を越えました（2/25現在）。今後のことば、全く予断を許しません。

北京冬季五輪が2/20に閉幕。スキージャンプの不可解な判定や女子フィギュアのドーピング疑惑など数々の問題が提起され、そもそもわが国は事実上の外交ボイコットを行った稀に見る大会でもありました。しかし終わってみれば、平和でなければ大会はできず、選手たちの努力も私たちの感動もないことは、ウクライナがロシアに侵略される直前であっただけに、世界中の人々が一層強く感じたのではないかと思います。

「力による一方的な現状変更を許さない」。私たちは、それが世界の共通認識と信じていましたが、現実はどうでしょうか。それは単なる「あるべき論」に過ぎないとすれば、非常に悲しいことです。

ウクライナの現実は、わが国の有り様を鋭く穿ちます。^{うが}ウクライナに憲法9条があれば、この状況を回避できたのでしょうか。「平和を愛する諸国民の公正と信義を信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意」（憲法前文）すれば、国家の安全は担保されるのでしょうか。国連が全く機能しないことも、鮮明に、改めて白日の下に晒されました。

古来より、世の中の原理原則は「天は自ら助くる者を助く」（サミュエル・スマイルズ）であり、「現実の前に理想は無力」であるという政治のリアリズムを、残念ですが私たちはもう一度肝に銘じる必要があると思います。ウクライナで起こっていることは遠い国の出来事ではなく、近い将来、わが国にも起こりえることなのです。



第208回通常国会登院

